

1人1台端末環境を基盤とした授業改善

浅口市立鴨方東小学校

2025.1.24

岡山県教育委員会
教育情報化推進室なぜ自由進度学習に取り組むのか

浅口市立鴨方東小学校では、校内研究テーマ「子ども一人一人が主役の学び～自由進度学習を取り入れた授業を通して～」のもと、積極的な授業改善に取り組んでいます。現在広がりつつある自由進度学習については、「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）において、次のような記述があります。

全ての子供に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するためには、教師が支援の必要な子供により重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、**子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなどの「指導の個別化」が必要**である。P17

上記の内容から、例えば、これまで教師が丁寧に教えることが多かった基礎的・基本的な知識・技能についても、子供が自立して学ぶことができるように指導や支援を工夫するという視座からの改善が求められています。まさに「授業観の転換」や「学びを委ねる」ことがキーワードになりますが、**子供たちを自立した学習者として育成するために、どのような学び方を身に付けさせるかを検討することが必要**です。

鴨方東小の児童が身に付けつつある学び方の一つが「**教科書の活用**」です。めあてを達成するために教科書を丁寧に読み取って、重要なポイントにアンダーラインを引いたり、気付きを書き込んだりしながら、思考を深めます。

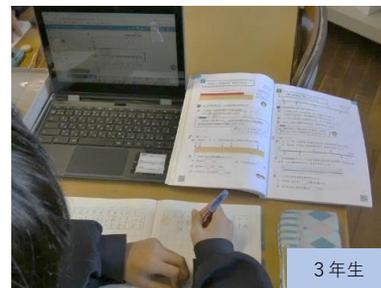
4年生の社会の学習では、更に上手な教科書活用ができるように、教師がある児童の教科書を電子黒板に示し、本文と図の関連性の読み取り方や書き込みの工夫等、身に付けてほしいことを指導します。各々が進める学習の途中でも、学び方をしっかり身に付けさせる指導は欠かせません。また、次のステップとして、学びの跡が残る教科書をカメラで撮影しクラウドで共有するように呼びかけ、いつでも参照できるように工夫することも可能でしょう。

3～6年生の学級では、児童が自由進度学習の要である「学習のてびき（学習計画）」を1人1台端末で確認しながら、教科書を読み取って思考をノートに表すという学びのスタイルがスタンダードになっていて、学校全体で研究を積み重ねてきた成果の一端を垣間見ることができます。このように、日々学び方も意識しながら学習に取り組む児童たちは、場面や状況に応じて効果的な学習方法等を適切に考える力も備わり、自立した学習者として成長していくでしょう。

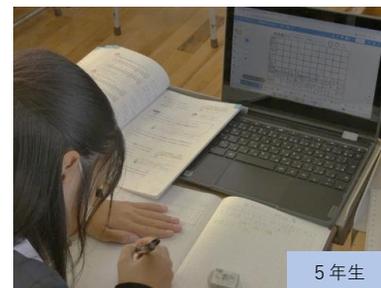
当然のことながら、目的は、自由進度学習に取り組むことではなく、自由進度学習も取り入れた授業を通して、子供たちが様々な力を付けることです。教師は、常に繰り返し「**なぜ取り組むのか**」を考えながら、「**一斉か自由進度か**」「**デジタルか紙か**」等の二項対立に陥らず、**バランス感覚を研ぎ澄まして計画・実践していくことが重要**です。「～さえやれば大丈夫」というような考え方は、アンラーンすべきでしょう。



4年生



3年生



5年生